

住宅を訪れて、御尊交並に試験場長たる御令息にもお目にかかり、御尊父の御案内で菊園等を見せたい、きまされた。昨夏二郎公が御厄介になつた御禮を申上げました。而して老台からは父上から毎

公園で場長さん、道徳の島内さん、田さん等、御一絡し、道内の産物、動植物等を陳列してあり、之によつて拓開を中心とした北海道の全貌を知る事、出来ました。北海道

### 内郷村報の 六大使命

- 一、政黨派を超越して、村力充實主義を標榜す。
- 二、村内公私各機關の活動状況を報導し併せて其協調を計り、總親和總努力の實現を期す。
- 三、本村社会事業の徹底を期す。
- 四、村内の善美行を表彰し、且之を獎勵す。
- 五、本村を本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
- 六、尙餘力を以て、國民善導に當る。

# 内郷村報

天法人則  
ニ從順ナ  
ルベシ

## 責任感念が

## 何よりの解決案

大 内 民 惠

之は九月十七日郡山市公會堂に開催せられた縣下方面委員大會に郡山市から提出せられた協議題「少年の不良化防止の具体的方法如何」に就きて記者が開陳したる大要を訂正補足したるものであります。

**只今** まで答申案整理委員として、委員會に出席して居つた爲、此協議題に就いて皆様から如何なる御意見の御發表があつたかは存じませんが、私はかゝる問題については、聊か關心を持つて居りますので、愚見の一端を申上げて御参考に資したいと存じます。

去る七日の東京日々新聞福島版に「檀徒の罪へ涙の訓戒、鐵窓に咲く佳話」といふ題下に、石川郡泉村岩法寺住職

**遠藤** 至道師が、本年二十歳になる青年某が、窃盜罪を犯し、未決監房に

先年幸徳事件に連座せる死刑人名を時の桂總理大臣が大帝に奏上したる處

**明治** 大帝には何とも仰せぬ

罪あらば我をどがめよ天つ神民は我身の生みし子なれば

の御製を給はつたので首相は恐懼感激、其内幾人かに滅刑の恩命が發せらるゝ運びとなり、既に今日では出所して、更生の境涯にある人もあるのであります。もとより少年の

ありす。而して一般人を其處迄導く責任は、何と申しても宗教家教育家等にあり。我國刻下の状態では、遺憾ながら其處までは行つて居ないのであります。例へば

本紙發行は大内一家の事業にして、其の社説は子孫に對する遺言を兼ねるものなり。

本紙定価 一冊五錢 一年五圓 半年三圓 半年三圓 半年三圓

發行所 大内民惠

印刷所 平活版所

**不良** 化を防止する具体方法の如きは、其少年の本質、境遇、環境等種々雑多でありまして、一列一體に之を教化し、之が出現を防止するが如きは由來容易な事ではなく、之を要するに、家長、村長、知事、大臣とした人々の何れもが明治大帝の御聖旨を奉體して、家族なり配下なりの

教育 家達は、もし其學校から、えらい人物でも出たとなると、之れ母校の名譽だなど、稱して、さも自分等の力でもあるかの如く、大に誇りとするのであるが、若し仮りに其學校の出身者中から、不良者が出たとすると、一も二もなく本人なり社會なりの罪として、更に顧る處がないの

であります。宗教家に於ても同様の事と存じます。それは今日の制度の上では、如何ともいたし難い次第でもありませうが、眞に苦しい次第で、覺醒一番遠藤師に學ぶ處がなければならぬと思はるゝのであります。今日こゝに御列席の方々は、何れも方面委員として、それ〴〵其地方に於ける**有力**者であらるゝのであります。持のカード者のみならず、一般教化の上にも、以上申し上げた様な、見地精神から種々御研究御盡瘁あらん事を、心から念願いたす次第であります。

**責任** を負ふて、不良者を悟を持つ事としたならば、自ら其處に、幾多の具体的方法が必ず案出される事と思ふのであります。少年の不良化防止具体的方案の如きも、其と軌を一にするものであると考へらるゝので

本紙既報の通り、内郷村方面事業助成會に於ては、愈々活動期に入りたるを以て最近支部委員の詮考も、すべて之を了し、それ〴〵囑託状を發し、役員全部の決定を見た。其氏名は左の通りである。

- 内郷方面事業助成會 陣容全**
- ◎副會長 大内民惠
- ◎理事 齊藤 彌一 吉田 仙治  
赤土 興榮 高原 重吉  
田中 宇一郎 武藤 義造  
山崎 辰亥 大内 民惠  
齋藤 喜平治 佐藤 久太郎  
松村 智清 田口 淳三  
◎評議員 山下 喜代治
- ◎顧問 (以下順序不同)
- 櫻村 好度 金澤 庄十  
菅波 忠治 野木 龜之助  
菅原 萬治郎
- ◎會長 沼田 濱之助  
◎副會長 金澤 爲喜
- ◎評議員 竹島 廉平  
三澤 義則  
廣瀬 貞  
上原 四郎  
加藤 丈夫

旭川市 七月二十三日夜 北越旅館にて

旭川市 七月二十五日夜 北越旅館にて

旭川市 七月二十五日夜 北越旅館にて

旭川市 七月二十五日夜 北越旅館にて

旭川市 七月二十五日夜 北越旅館にて

旭川市 七月二十五日夜 北越旅館にて

旭川市 七月二十五日夜 北越旅館にて

旭川市 七月二十五日夜 北越旅館にて

旭川市 七月二十五日夜 北越旅館にて

旭川市 七月二十五日夜 北越旅館にて

旭川市 七月二十五日夜 北越旅館にて

旭川市 七月二十五日夜 北越旅館にて

(第一面よりつづく)

- 金原喜一郎 猪狩喜平治
- 生田 常弘 山崎佐市郎
- 新谷 彦資 草野三千雄
- 永井茂次郎 鈴木 佐市
- 金澤 爲喜 園邊 未造
- 小野 昇 田中宇一郎
- 湊 慶三郎 島田 兼吉
- 長谷川幾之介 田中 義枝
- 馬目千之松 志賀 留吉
- ◎支助員 杉山今朝吉
- 大越 治七 佐藤 留藏
- 矢野 倉藏 高階 一郎
- 水野 一壽 高萩桂次郎
- 江尻龜太郎 宮下 秀實
- 鈴木 喜政 安原 大藏
- 反保忠右門 佐藤 清
- 宗像 啓治 柴田 正則
- 若松總太郎 五十嵐一也
- 馬目太平治 堀 一郎
- 福羽 堅三 日野 定則
- 淺川 虎彦 弓田 庸
- 庄 葵次郎 四家 又一
- 山崎庫太郎 野木 力
- 佐藤 一 成田 政助
- 大谷菊之助 佐藤 三平
- 久野 米吉
- 吉田伊三郎
- △白水支部
- ◎支部長 若松 利重
- ◎副支部長 大越惣一郎
- ◎委員 酒寄清一郎
- 高橋庄三郎 伊藤友三郎
- 高橋 平藏 根本 林平
- 粟谷 平藏
- 小松徳太良
- △内町支部
- ◎支部長 久野藤二郎
- ◎副支部長 鈴木庄太郎
- ◎委員 市川 善長
- 金成源次郎 鈴木 六造
- 伊藤仙七郎
- 伊藤 久
- △宮支部
- ◎支部長 粟谷豊之助

矢野 恒太序 大内民惠著

教育制度改革概論

(四六版二一頁 定價五十錢 郵税六錢)

三度助役に當選せる

金澤 爲喜氏

助役金澤爲喜氏は、先月を以て表をなすを得なかつた。

健康保険理事

この事である。

- ◎副支部長 草野 興平
- ◎委員 長沼平八郎
- 小島 昇 山田 龜二
- 松崎 清風 齋藤倉之助
- 鈴木金五郎 園井 作治
- 吉村 清吉 飯尾 龜吉
- 關 熊藏 香妻 森衛
- 山崎 金興 志賀 忠夫
- 鈴木 平太 粟谷 茂作
- 山崎 新平 粟谷才之助
- 鈴木 市郎 吉田 平藏
- 宮崎 定吉 熊田規三郎
- 草野佐市郎 草野 博
- 渡邊久之助 松本 大
- 草野彦太郎 高萩 佐重
- 高萩 陸男 山崎 貞重
- 高原庄五郎 瀧川 松治
- 田中 梧樓 安田宇太郎
- 坂本宇之吉 佐藤 繁
- 五十嵐政吉 大友 寅吉
- △上級支部
- ◎支部長 金澤 慶一
- ◎副支部長 佐藤久太郎
- ◎委員 鈴木 平造
- 阿部 政藏 大竹 金治
- 藤田 金治 加々美銀次
- 柿沼新五郎 山口 甚六
- 菅本 久義 秋山幸太郎
- 小野 辰藏 秋山 芳久
- 渡邊 忠義 金澤 正重
- 箭内千代春 沼田 敬助
- 白土藏太郎 箱崎 信男
- 鈴木 一

- 小島小二郎
- △下級支部
- ◎支部長 齋藤 彌平
- ◎副支部長 山崎米太郎
- ◎委員 廣木春之九
- 山崎 糸二
- 久保木一男 山崎 興平
- △高城支部
- ◎支部長 草野政太郎
- ◎副支部長 遠藤萬四郎
- ◎委員 鈴木 保吉
- 根本 與作
- 鈴木 英一
- 江尻 萬興
- 遠藤 米吉
- △御蔵支部
- ◎支部長 生田傳四郎
- ◎副支部長 網掛 豊作
- ◎委員 菅本淺太郎
- 網掛榮之助
- 野木 春伊
- 野田辰次郎
- ◎御蔵支部
- ◎支部長 草野 末吉
- ◎副支部長 草野 利雄
- ◎委員 萩 定雄
- 久野 喜衛
- 菅原 定隆
- △小島支部
- ◎支部長 山下喜代治
- ◎副支部長 高木 平作
- ◎委員 吉田 三郎
- 吉田 市次 鈴木 忠治
- 遠藤 一二 山下千代吉

第二磐城炭礦の創立

水没三井炭礦の復活

出水の爲休山中であつた、下に、資本金百五十拾萬圓の在磐崎村三井經營原炭礦 第二磐城炭礦株式會社創立の復舊計劃は、年來の問題によつて、實現される事となつたが、愈々此程機熟なつた。其出資額は三井はして、磐城炭礦との提携の礦區三百萬坪を(七十五萬

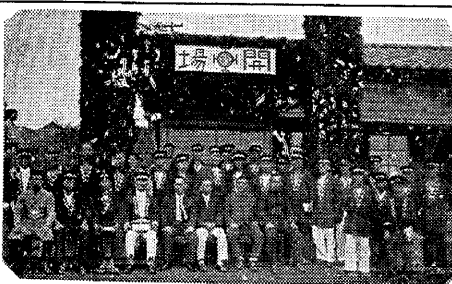
圓)出し、磐炭は出炭を見らる迄の作業費並に設備費(七十五萬圓)を出す事になり、今月早々に着手する事となつたので、地方一般から大に矚目期待されて居る。因に二ヶ年後には、磐城炭礦と合併する豫約であるとの事である。

村會

九月二十六日村會を開き、小學校敷地買収の件、内郷第二小學校々舎増築設計變更の件、基本金運用の件、昭和九年度石城郡内郷村歳入追加更正豫算議決の件助役を定むるの件の六件を附議し審議決定した。

方面委員會 其取扱事項

九月二十八日午後一時より役場内に例會を開催、大内常務及渡邊書記より、郡山市に開催せられたる縣下方面委員大會及講習會に關する報告あり、次に來る十月八日より名古屋市中に開催せらるる、全國方面委員大會へ田口佐藤兩委員代表出席の件等二三重要問題を協議して夕刻閉會。次に九月分取扱事項は左の通りである。昭和九年九年分生活扶助、法令による者二



御殿俱樂部開場記念 (前記事務照)

縣下方面委員大會 九月十七日より三日間郡山に開催せられたる同會へ、本村よりは沼田村長、大内方面常務委員及渡邊書記の三氏出席した。

◎本紙贊助金寄贈芳名

- 金壹圓 梁川 大塚 孝順
- 金貳圓 本宮 渡邊 眞藏
- 金五圓 内郷 佐藤久太郎
- 金五圓 同 無名
- 金五拾錢 東京 杉田 勇

日本評論社

東京 橋本三丁目

内郷村報社

故郷の一日

大内 二郎

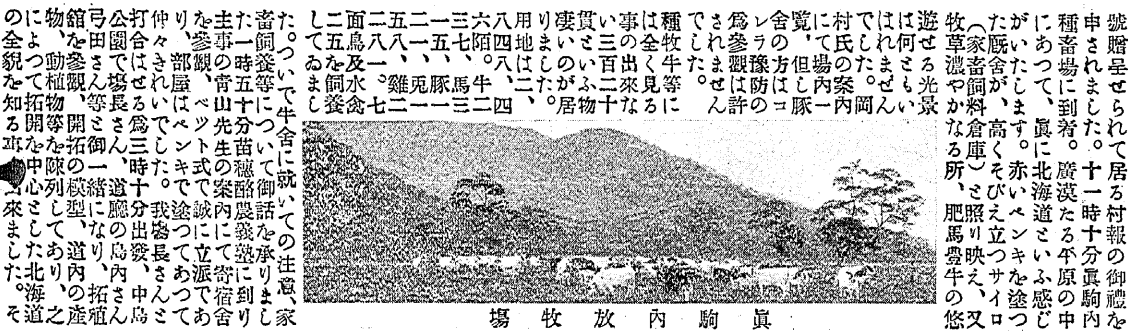
兩兒の此文を茲に採録して御配慮を煩はした各位に對して御禮の言葉を代へる 民惠



北海道農業の心臓見學記

北海道拓殖實習場 大内 一郎

(承前) 月寒では千頭の羊を飼育して居る事、其需用の千倍に育たなければならぬ事、其需用の千倍に育たなければならぬ事、其需用の千倍に育たなければならぬ事...



眞駒内放牧場

四時半、こゝに曉たるラッパで起床。塾生の人々も手づつて班内に集合。五時、國旗を掲げ、班長が挨拶。五時半、青島主事先生の御訓辭があつてラヂオ体操、誠に氣持よく朝の行事で、後、飯、汁、漬物の朝食を承けた。道内に於ける牛は、九萬八千頭、其生産乳量は全國の三分の一以上である...

旭川 七月二十三日夜 北越旅館にて 旭川市 北越旅館にて 旭川市 北越旅館にて 旭川市 北越旅館にて...

七月二十四日夜 北見實習場にて 常呂郡 北見實習場にて 常呂郡 北見實習場にて 常呂郡 北見實習場にて...

七月二十五日夜 北海道尾道大樹村 北海道尾道大樹村 北海道尾道大樹村 北海道尾道大樹村...

内郷村報の 六大使命 一、政黨政派を超越して、村力充實主義を標榜す。二、村内公私各機關の活動状況を報導し、併せて其協調を計り、總親和總努力の實現を期す。三、本村社會事業の徹底を期す。

四、村内の善事美行を表彰し、且之を奨勵す。五、本村と本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。六、餘力を以て、國民善導に當る。

本紙發行は大内一家の事業にして、其の社説は予孫に對する遺言を著せるものなり。 旭川市 北越旅館にて 旭川市 北越旅館にて...